

平成19年度
函館・大沼・噴火湾ルート活動報
告

0. 地域活動報告の概要
1. ルート運営活動計画に関する地域の報告
2. ルート運営活動計画に関する行政の報告
3. 地域及び行政の運営に関する報告

0-地域活動報告の概要

・地域活動に関する報告(函館・大沼・噴火湾ルート)

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート	報告者: 函館・大沼・噴火湾ルート 代表 金道太郎	報告年月: 2008/3/31
---------------------	---------------------------	-----------------

	ルート(エリア)運営計画基本方針	ルート(エリア)運営計画活動内容	活動No	平成19年度 地域活動(総括)	
景観形成	美しい景観とは何かについて考える	景観診断の参加	完了	清掃活動や植栽活動など、個別活動に終始せず、シーニックバイウェイ北海道を通じた活動のPRが必要である。 指定ルート3年目を迎える来年度は、ルート運営計画活動内容が具体化しているのに対し、中長期活動スケジュールが抽象的なため、ルート運営活動計画の見直しが必要である。 運営体制の基盤が充実したこともあり、景観形成に向けた取り組みを強化していく必要がある。	
		テーマごとのエリアの紹介	H A - 1,20		
	ビューポイントを発掘する	シーニックフォトクラブの設立	H A -		1
		シーニックバスツアーの開催	H A -		20
		シーニックルートマップの作成	H A -		
	ビューポイント周辺の景観向上に取り組む	清掃活動の実施	H A -		19,21
		植栽活動の実施	H A -		17,18
景観阻害の改善		H A -			
観光振興	地域固有の資源を活かした観光メニューの創出	バル街V協賛イベント「街なか探訪・学び」ツアー (H19: シーニックバスツアー)	H A - 1	冬の新しい連携活動であるシーニックdeナイトは、地域の目標が「函館から八雲まで灯り道をつなげたい」となっており、また冬の観光商品として確立させるためにも、次年度以降の継続が必要である。 シーニックバスツアーは、地域資源の再発掘という視点から観光商品として確立させていくためにも、今後ターゲット、バスツアールート等の具体的・長期的なメニューづくりが必要である。 指定ルート3年目を迎える来年度は、ルート運営計画活動内容が具体化しているのに対し、中長期活動スケジュールが抽象的なため、ルート運営活動計画の見直しが必要である。 参加者の拡大及び活動資金の捻出等の課題の克服が必要である。	
		「旧恵山町のブナ林と春の野の花の観察と生きた火山恵山とその周辺の歴史を学ぶ」ツアー (H19: シーニックdeナイト2008)	H A - 2~6		
		「鹿部町間欠泉とホタテの耳吊り体験」ツアー (H19: 夏休み体験講座、恵山観察会)	H A - 11,16		
	活動団体の連携強化と観光の質の向上	縄文文化を再現し体験する歴史探訪ツアー	H A - 1		
		西部地区の歴史的街並み探索ツアー	H A -		2~6
		温泉宿泊施設を拠点に各種体験を交えた「癒し」のツアー	H A -		12
		ルート全体で取り組むスマイルキャンペーン (H19: バリアフリーボランティア事業)	H A -		14
歴史を学び活かす	場所を変えた観光分科会の開催 (H19: 縄文の道フォーラム)	H A -	22		
	「函館の歴史を学ぶ」講座 「函館の港を船上から学ぶ」講座 (H19: アンギン編み&勾玉作り)	H A -			
地域づくり	自然を守りながらうまく活用していく	キャンプ&ラリーの開催 (H19: 赤松観察会)	H A - 15	指定ルート3年目を迎える来年度は、ルート運営計画活動内容が具体化しているのに対し、中長期活動スケジュールが抽象的なため、ルート運営活動計画の見直しが必要である。 ルートHPやその他の情報ツール(かるたなど)を活かしたシーニックバイウェイ北海道のルート内外に向けたPRが必要。	
		横津岳ガイドツアーの開催 (H19: 恵山観察会)	H A - 16		
		自然環境教育プログラムの提供	H A - 11		
	ガイドの発掘・育成	大沼公園ボランティアガイド研修会	完了		
		ガイド発掘・育成のための連携づくり	H A - 1		
	地域と来訪者の心をつなぐ	人とひととのふれあい方について勉強する	H A - 2~6,13,17,19		
	内部的な関心の共有、意識醸成	函館・大沼・噴火湾ルート活動団体一覧作成 (H19: 代表者会議の運営体制の変更など)	H A - 7,8,10		
		FMいるかの情報誌「いるか通信」に特集記事掲載	完了		
	地域メディアとのタイアップ	FMいるかの特別番組による情報発信	完了		
	多彩な世代に訴えかける情報ツールの開発	シーニックかるたの作成 (H19: はこまち通信作成によるPRなど)	H A - 9,20,23		
地域資源を説明するカードの作成		H A -			

函館・大沼・噴火湾ルート

HA-1

Hakodate-Onuma-Funkawann Scenic Byway

シーニックバスツアー

【内 容】 著保内野遺跡から発見された“中空土偶”が北海道初の国宝に指定され、地域の縄文文化に対する意識がさらに高まってきたことから、発掘体験や縄文に関するガイドといった「縄文」をキーワードにした内容で実施しました。

【日 時】 平成19年8月18日（土） 8:40～15:00

【場 所】 函館市地域交流まちづくりセンター集合 函館市

【主 催】 函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議、函館商工会議所、函館商工会議所青年部

【協 力】 NPO法人函館市埋蔵文化財事業団、北の縄文CLUB、恵山地区女性団体連絡協議会、活力ユニット、函館市教育委員会

【参加人数】 33名（大人30名、小人3名）

シーニックバスツアー行進図



8:40に函館市地域交流まちづくりセンターを出発。この場所は、シーニック情報拠点の一つでもある。



バス車内では走行エリア周辺の特色や歴史、また縄文に関する説明を函館市教育委員会の小林さんにガイドして頂きました。



14:10に市立函館博物館に到着。国宝の「中空土偶」を見学。

12:20に食事処辰海に到着。この場所は、恵山地区女性団体連絡協議会の山田さんが経営するお店。恵山界隈で獲れた海の幸を中心とした料理を頂きました。



9:45に豊崎F遺跡に到着。NPO法人函館市埋蔵文化財事業団、北の縄文CLUBの方々の協力を頂き、縄文発掘体験を実施。実際に遺跡を掘り当てるグループもあり、調査員の方も、「このようなことは滅多にない！」とビックリ。

函館・大沼・噴火湾ルート

HA-2

Hakodate-Onuma-Funkawann Scenic Byway

シーニックdeナイト2008概要

【内 容】 今年2年目を迎えた「シーニックdeナイト2008」は、活動団体同士の連携をさらに深め、シーニックバイウェイ北海道の普及、地域住民の参加を目的に実施しました。これらの目的を達成するために、実施日を2008年2月1日（金）～3日（日）の3日間で行い、各実施場所でも同じキャンドル（ワックスキャンドル）を使用しました。このキャンドル作りは小さな子供から大人までの大勢が参加し、楽しみながら行うことができ、函館市・七飯町の計7箇所合計約5,000本のキャンドルに火が灯されました。

【日 時】 平成20年2月1日（金）～3日（日）

【場 所】 函館市、七飯町

【主 催】 函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議シーニックdeナイト2008実行委員会

【協 力】 NPO法人どうなん「学び」サポートセンター、NPO法人函館市埋蔵文化財事業団、函館手工芸の会、函館すびれっと、ふしぎな花俱樂部、函館花いっぱい道づくりの会、函館商工会議所、函館商工会議所青年部、（社）函館国際観光コンベンション協会、函館21の会、七飯町立七重小学校、函館開発建設部、函館運輸支局、函館土木現業所、函館市、七飯町



函館市地域交流まちづくりセンターにおけるワックスキャンドルづくり



五稜郭タワーにおけるワックスキャンドルづくり



七飯町商工会におけるワックスキャンドルづくり

函館・大沼・噴火湾ルート

HA-3

Hakodate-Onuma-Funkawann Scenic Byway

シーニックdeナイト2008詳細①

【内 容】港ヶ丘通りでは、ワックスキャンドルのほかに、手作りのアイスクャンドルも製作し、合計約600個のキャンドルを設置しました。元町公園では斜面を利用して、キャンドルでシーニックパイルウェイ北海道のロゴマークにも使用されているハートを形作りました。当日は来場した人々も幻想的な灯りを楽しんでいました。

【日 時】平成20年2月1日（金）
18:00～19:30

【場 所】港ヶ丘通り

【主 催】NPO法人スプリングボード
ユニティ21

【協 力】（社）函館国際観光コンベンション協会、函館開発建設部、函館市

【参加人数】約30人

【内 容】函館市地域交流まちづくりセンターは、当ルートの情報拠点にもなっており、今年初めて「シーニックdeナイト」が実施しました。函館でも歴史ある西部地区の沿道には手作りの暖かなキャンドルの灯りが並び、地元の人々だけでなく、訪れた外国人観光客も楽しんでいました。

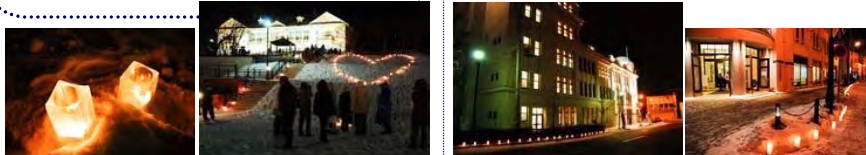
【日 時】平成20年2月1日（金）
18:00～19:30

【場 所】函館市地域交流まちづくりセンター

【主 催】活カユニット

【協 力】NPO法人どうなん「学び」サポートセンター、はこだて菜の花プロジェクト、函館開発建設部

【参加人数】約10人



函館・大沼・噴火湾ルート

HA-4

Hakodate-Onuma-Funkawann Scenic Byway

シーニックdeナイト2008詳細②

【内 容】五稜郭公園では、12月から2月にかけて、特別史跡五稜郭の内堀を電球で飾るといって「五稜星の夢」というイベントが行われています。その五稜郭の外堀約1.8kmに手作りのキャンドルを設置しました。「電球で鮮やかに浮か上がる五稜郭とその外側でほのかに揺れるキャンドルの灯りのバランスが絶妙な味を出している」と、タワーから眺めていた人々にも、高評価を頂きました。

【日 時】平成20年2月2日（土）
17:00～19:00

【場 所】五稜郭公園

【主 催】NPO法人スプリングボード
ユニティ21

【協 力】函館土木現業所、函館市

【参加人数】約30人

【内 容】南茅部公民館では、道路脇にキャンドルを設置する以外に、北海道初の国宝に指定された「中空土偶」発祥の地ならではの「縄文」をモチーフとした雪だるまを製作し、キャンドルを設置しました。イベント終了後には、地元団体の来年の参加も決まっており、地域へのイベントの認知度が広がっています。

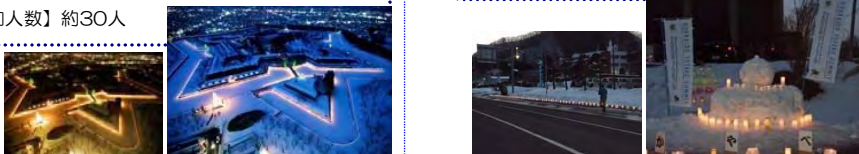
【日 時】平成20年2月2日（土）
17:00～19:00

【場 所】南茅部公民館前

【主 催】北の縄文CLUB

【協 力】NPO法人函館市埋蔵文化財事業団、函館開発建設部、函館市

【参加人数】約30人



函館・大沼・噴火湾ルート

HA-5

Hakodate-Onuma-Funkawann Scenic Byway

シーニックdeナイト2008詳細③

【内 容】七飯町商工会では、七重小学校の児童やPTAにも参加を呼びかけ、キャンドル作りから設置に至るまでを行いました。イベント当日は、自分たちが作ったキャンドルに火が灯るのを見て歓声を上げ、イベントの成功を喜びました。来年は七飯町にある全部の小学校の参加に向け既に動き出しています。

【日 時】平成20年2月2日（土）
16:00～18:00

【場 所】七飯町立七重小学校前

【主 催】七飯町商工会

【協 力】七飯町立七重小学校、函館開発建設部、七飯町

【参加人数】約30人

【内 容】大沼公園広場では、道路脇に大沼湖の天然氷を使用したアイスキャンドルに火を灯しました。また、大沼函館雪と氷の祭典の中では、シーニックパイウェイ北海道のロゴマークを模した雪像も設置し、シーニックパイウェイ北海道のPRを行いました。

【日 時】平成20年2月2日（土）～3日（日）
18:00～20:00

【場 所】大沼公園広場

【主 催】大沼観光協会

【協 力】函館商工会議所青年部、函館すぶれっと、函館21の会、函館手工芸の会、函館開発建設部、函館運輸支局、函館土木現行所、七飯町

【参加人数】約100人



函館・大沼・噴火湾ルート

HA-6

Hakodate-Onuma-Funkawann Scenic Byway

シーニックdeナイト2008詳細④

【内 容】函館新道では、夏から秋にかけて花の植栽活動が行われており、ドライバーの目を楽ませています。これと同じ場所に設置された手作りのアイスキャンドルには、その花が使用されています。イベントには幅広い年齢層の地域住民の方々等が参加し、今後の活動の継続を楽しみにしています。

【日 時】平成20年2月3日（日）
17:00～19:00

【場 所】函館新道

【主 催】函館花いっぱい道づくりの会

【協 力】函館すぶれっと、函館開発建設部

【参加人数】約100人



函館・大沼・噴火湾ルート

HA-7

Hakodate-Onuma-Funkawann Scenic Byway

函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議運営体制の変更

【内容】平成19年度、ルート運営代表者会議は、「情報共有」と「機会均等の強化」、「意志決定機関の明確化」を達成するために、役員会を設立し、ルート運営代表者会議の運営体制の再構築を図りました。

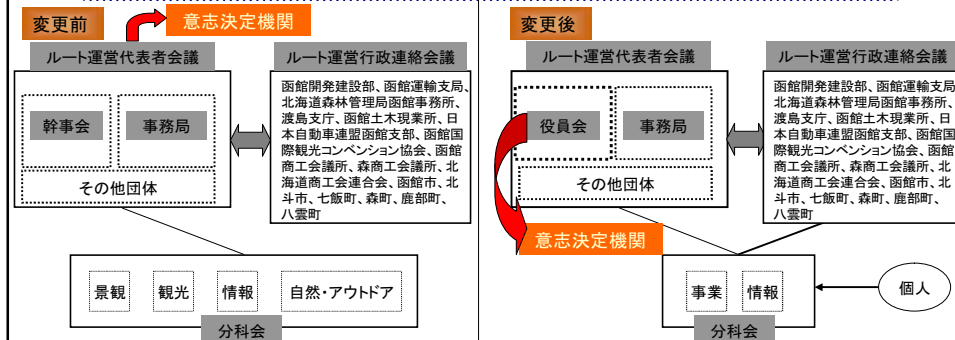
【日時】平成19年11月29日（木） 18:30~20:30

【場所】函館市地域交流まちづくりセンター

【主催】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議事務局

【協力】函館開発建設部

【参加人数】17名



函館・大沼・噴火湾ルート

HA-8

Hakodate-Onuma-Funkawann Scenic Byway

シーニックパネル展

【内容】シーニックバイウェイ北海道の普及のため、ルート運営行政連絡会議を通じて、各市町の施設を無料で貸して頂き、パネルを持ち回りすることにより、シーニックパネル展を開催しました。

【日時】平成19年度

【場所】函館市地域交流まちづくりセンター、函館市役所、北斗市総合文化センター、七飯町文化センター、噴火湾パノラマパーク

【主催】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議

【協力】函館開発建設部、函館市、北斗市、七飯町、八雲町

【参加人数】20名



函館・大沼・噴火湾ルート

HA-9

Hakodate-Onuma-Funkawann Scenic Byway

ルートHPの企画・作成

【内 容】平成17年にルートが設立されて以来、個別活動や連携活動といった多くの活動が行われてきましたが、参加活動団体から他団体の活動内容が把握できないとの問題点が挙げられていました。これを受けて、平成20年3月に情報分科会を中心とし、ルートHPのコンテンツや運営体制についての検討を行いました。このルートHPは活動団体内部の情報共有の場とすることを当面の目的としています。

【日 時】平成20年1月23日（水） 18:00～19:00

【場 所】函館市地域交流まちづくりセンター

【主 催】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議情報分科会

【協 力】函館開発建設部

【参加人数】7名



函館・大沼・噴火湾ルート

HA-10

Hakodate-Onuma-Funkawann Scenic Byway

ルート運営行政連絡会議への参加

【内 容】ルート運営行政連絡会議にルート運営代表者会議メンバーが参加し、平成19年度の活動報告を行うとともに、平成20年度のルート連携活動について報告を行いました。行政連絡会議のメンバーには活動や検討会等への参加の呼びかけを行いました。

【日 時】平成20年3月17日（月） 15:00～17:00

【場 所】渡島支庁合同庁舎 401会議室

【主 催】函館・大沼・噴火湾ルート運営行政連絡会議

【協 力】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議

【参加人数】23名



函館・大沼・噴火湾ルート

HA-11

Hakodate-Onuma-Funkawann Scenic Byway

夏休み体験講座

【内 容】「縄文文化にふれてみよう」ということで、小学生から中学生を主対象とした夏休み体験講座を開催しました。埋もれている土器や石器などの遺物を探す体験発掘や、遺物の整理なども行いました。また、付近の自然観察も合わせて実施しました。

【日 時】平成19年7月27日（金）、8月3日（金） 10:30～14:00

【場 所】豊崎F遺跡

【主 催】NPO法人函館市埋蔵文化財事業団

【協 力】北の縄文CLUB、函館市立函館博物館

【参加人数】40名



函館・大沼・噴火湾ルート

HA-12

Hakodate-Onuma-Funkawann Scenic Byway

バリアフリーボランティア事業 トラベルサポーター入門編

【内 容】旅行・医療・福祉関係者及び一般市民を対象として、ボランティアへの意識啓発や組織化・活性化を促進することを目的にバリアフリーボランティア事業の概要説明とトラベルサポーター養成講座入門編を開催しました。

【日 時】平成20年2月16日（土） 9:00～18:00

【場 所】函館市総合福祉センター、金森赤レンガ倉庫群など

【主 催】北海道運輸局

【協 力】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議、函館開発建設部、函館市、函館市社会福祉協議会など

【参加人数】約30名



函館・大沼・噴火湾ルート

HA-13

Hakodate-Onuma-Funkawann Scenic Byway

日本風景街道シンポジウムちゅうごく

【内 容】日本風景街道戦略会議副委員長の東京工業大学 中村良夫名誉教授に「日本風景街道のこころざし」と題して、日本の様々な国土文化（風土）や道路による文化効果、日本風景街道の目指すものについての講演があり、また、パネルディスカッションでは、函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議事務局長の折谷久美子さんが出席され、ご自身の会の活動紹介や活動における問題点などを発表しました。

【日 時】平成19年9月13日（木） 14:00～17:30

【場 所】広島YMCA国際文化ホール

【主 催】中国地方風景街道協議会

【協 力】NPO法人スプリングボードユニティ21など

【参加人数】300名



函館・大沼・噴火湾ルート

HA-14

Hakodate-Onuma-Funkawann Scenic Byway

縄文の道フォーラム

【内 容】函館市に北海道初の国宝が誕生しました。南茅部地域著保内野遺跡から出土した中空土偶は、「茅空（かっこう）」の愛称で市民に親しまれています。このフォーラムでは、貴重な文化遺産である土偶について学び、縄文文化への理解と生涯学習の推進に寄与することを目的に開催しました。

【日 時】平成19年9月8日（土） 13:00～16:00

【場 所】南茅部公民館 講堂

【主 催】NPO法人函館市埋蔵文化財事業団

【協 力】北の縄文CLUB、函館市教育委員会、南茅部漁業共同組合など

【参加人数】130名



函館・大沼・噴火湾ルート

HA-15

Hakodate-Onuma-Funkawann Scenic Byway

赤松観察会

【内 容】赤松観察会は、七飯町にある小学校の夏休み研究として、児童及び保護者を対象に実施しました。赤松の木の観察と合わせて沿道の清掃活動も行いました。

【日 時】平成19年8月5日（日） 9:30～12:00

【場 所】赤松街道

【主 催】赤松街道を愛する会

【協 力】七飯町

【参加人数】35名



函館・大沼・噴火湾ルート

HA-16

Hakodate-Onuma-Funkawann Scenic Byway

恵山観察会

【内 容】函館市のシンボルでもある恵山の「権現コース」をガイドと共に散策しました。新百名山の一つにあげられ人気の山となっている恵山では春のツツジが有名ですが、秋の紅葉も見事です。コースに奇岩が多いことでも脚光を浴びています。

【日 時】平成19年10月7日（日） 9:30～14:00

【場 所】恵山

【主 催】NGO函館自然観察会

【協 力】函館・大沼噴火湾ルート運営代表者会議

【参加人数】14名



函館・大沼・噴火湾ルート

HA-17

Hakodate-Onuma-Funkawann Scenic Byway

はこだて花かいどう（植栽）

【内 容】函館新道における植栽活動は、今年で4年目を迎えました。今年は、植栽日の前日にマルチシートを敷設し、植栽当日の時間短縮を図るなど、戦略的なアイデアも実現してきました。年々参加者が増加し、着実に地域に浸透しています。

【日 時】平成19年6月9日（土） 9:00～12:00

【場 所】函館新道

【主 催】函館花いっぱい道づくりの会

【協 力】函館すぶれっと、めぐみ幼稚園、函館開発建設部、函館道路事務所、函館土木現業所、函館市、函館市水道局、（財）函館市住宅都市施設公社、（株）函館空港ビルディング、函館新道沿線企業、建設業関係など

【参加人数】70名



函館・大沼・噴火湾ルート

HA-18

Hakodate-Onuma-Funkawann Scenic Byway

道道本通富岡線（植栽）

【内 容】道道本通富岡線における植栽活動は、今年で3年目を迎えました。今年は活動の連携を広げるために、初めて教育機関（亀田小学校）と連携した取り組みも行いました。児童には、花に興味を持ってもらうために出前講座を行うとともに、実際に水撒き機を使った体験講座も実施しました。

【日 時】平成19年8月18日（土） 8:40～15:00

【場 所】函館市地域交流まちづくりセンター集合 函館市

【主 催】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議、函館商工会議所、函館商工会議所青年部

【協 力】NPO法人函館市埋蔵文化財事業団、北の縄文CLUB、恵山地区女性団体連絡協議会、活力ユニット、函館市教育委員会

【参加人数】33名（大人30名、小人3名）



函館・大沼・噴火湾ルート

HA-19

Hakodate-Onuma-Funkawann Scenic Byway

周遊道路清掃活動

- 【内 容】毎年春先の観光シーズン前に、観光客の方に気持ちよく訪れてもらいたいという主旨で、地元の小中学校と連携した清掃活動を行いました。
- 【日 時】平成19年4月29日（日） 10:00～12:00
- 【場 所】大沼周遊道路
- 【主 催】大沼観光協会
- 【協 力】大沼小学校、大沼中学校、山川草木を育てる集い大沼本部、七重町
- 【参加人数】250名



函館・大沼・噴火湾ルート

HA-20

Hakodate-Onuma-Funkawann Scenic Byway

ルートマップの検討

- 【内 容】市町や観光協会等で作成されている既存のマップとは一味違った、シーニックバイウェイ北海道「函館・大沼・噴火湾ルート」ならではのルートマップを作成しようという案から、役員会にて次年度に向けた体制づくり及びスケジュール等の検討を行いました。
- 【日 時】平成19年11月29日（木） 18:30～20:30
- 【場 所】函館市地域交流まちづくりセンター
- 【主 催】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議役員
- 【協 力】函館開発建設
- 【参加人数】17名



ルートマップ案（表）



ルートマップ案（裏）

函館・大沼・噴火湾ルート

HA-21

Hakodate-Onuma-Funkawann Scenic Byway

自主研修&自然観察

【内 容】大船遺跡埋蔵文化財展示館の開館時期に合わせて、付近の清掃活動及び草刈りなど、自主研修という形で行いました。

【日 時】平成19年6月16日（土） 10:00～14:00

【場 所】大船遺跡埋蔵文化財展示館

【主 催】北の縄文CLUB

【参加人数】12名



函館・大沼・噴火湾ルート

HA-22

Hakodate-Onuma-Funkawann Scenic Byway

アンギン編み&勾玉作り

【内 容】アンギンとは、山地に生息するアカソの繊維で作った糸を編み上げた、縄文時代の布のことです。この日はアンギン編みのほかに、勾玉作りも行い、縄文文化に触れることができました。

【日 時】平成20年1月26日（土） 10:00～15:00

【場 所】南茅部公民館

【主 催】北の縄文CLUB

【協 力】NPO法人函館市埋蔵文化財事業団

【参加人数】13名



【内容】はこまち通信は、年4回発行しているフリーペーパーで、函館市の情報が詰まった情報誌となっています。この中で、シーニックバイウェイ北海道「函館・大沼・噴火湾ルート」ページを設け、旬の情報を発信しています。

【日時】通年（年4回）

【場所】-

【主催】NPO法人NPOサポートはこまち

【参加人数】5名



1. ルート運営活動計画に関する地域の報告

・地域活動に関する報告(函館・大沼・噴火湾ルート)

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート	報告者: 函館・大沼・噴火湾ルート 代表 金道太郎	報告年月: 2008/3/31
---------------------	---------------------------	-----------------

	基本方針	NO	平成19年度の活動内容	活動団体	活動実施日	参加人数	成果及び課題	総括
景観形成	美しい景観とは何かについて考える		—	—	—	—	—	景観形成の取り組みとして、大部分が清掃活動であった。各参加団体が各々の場所で個別に行っている現状であるが、シーニックの活動としての統一したPRが今後は必要。また、地域がすすめるビューポイントごとの清掃活動も今後実施していく。また、清掃活動だけではなく、活動団体の景観に対する意識向上を目指した取り組みも行っていきたい。
	ビューポイントを発掘する	H A - 20	ルートマップの検討	ルートマッププロジェクトチーム	11月29日	17	・ビューポイントだけではなく、食や体験施設など地域がおすすめる情報をアンケート調査により入手することができた。 ・今後マップに掲載する情報の選定が必要。	
景観形成	ビューポイント周辺の景観向上に取り組む	H A - 15	赤松観察会	赤松街道を愛する会	8月5日	30	・小学生の夏休み研究として実施しているだけではなく、沿道の清掃活動も取り入れることができた。 ・積極的に七飯町住民を参加させていくことが必要。	
		H A - 16	恵山観察会	NGO函館自然観察会	10月7日	14	・恵山観察の散策を行う傍ら、清掃活動も行うことができた。	
		H A - 17	はこだて花かいどう	函館花いっぱい道づくりの会	6月9日	650	・過去3年続けてきた活動を今年も継続して行うことが出来た。 ・植栽日に合わせた沿道の清掃活動を行うことができた。 ・北のまちづくり賞奨励賞を受賞。 ・年々参加者の増加とともに事務手続き等の作業が増加しているため、事務局の育成及び分散化が必要。	
		H A - 18	道道本通富岡線植栽	NPO法人スプリングボードユニティ21	6月2日	70	・過去2年続けてきた活動を今年も継続して行うことが出来た。 ・亀田小学校の児童に花の興味を持たせることができた。 ・平成21年3月開通に伴い関係する町会の植栽活動に対する意識を、アンケート調査により把握することができた。	
		H A - 19	周遊道路清掃活動	大沼観光協会	4月29日	250	・スロードライブやサイクリングなどが楽しめる周遊道路の清掃活動を行うことができた。	
		H A - 21	自主研修&自然観察	北の縄文CLUB	6月16日	12	・草刈りに合わせて清掃活動も行うことができた。	

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート	報告者: 函館・大沼・噴火湾ルート 代表 金道太郎	報告年月: 2008/3/31
---------------------	---------------------------	-----------------

基本方針	NO	平成19年度の活動内容	活動団体	活動実施日	参加人数	成果及び課題	総括
地域固有の資源を活かした観光メニューの創出	H A - 1	シーニックバスツアー	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議	8月18日	33	<ul style="list-style-type: none"> ・継続事業として行うことができ、遺跡発掘体験などの新たな観光資源を活かすことができた。 ・バスツアーの企画やPRなどの作業が事務局に偏りすぎており、バスツアールートや内容等についてルート全体で検討していくことが必要。 ・環境に配慮した取り組みが必要。 	今年2年目を迎えたシーニックdeナイトは、シーニックバイウェイルートに指定されてから取り組んだ活動。ルート内の冬の観光商品となるように、関係者だけではなく、地域住民も巻き込んだ活動となるよう今後も継続していく。シーニックバスツアーについては、これまで関係者による地域再確認という要素が強かったが、今後は地域住民を対象としたエリアごとの取り組みとしていく。
	H A - 4	シーニックdeナイト2008	シーニックdeナイト2008実行委員会	2/1~2/3	330	<ul style="list-style-type: none"> ・実施日を3日間に集約することにより、同日開催が発生しバスツアーを設けることができた。 ・冬期資源(氷・雪)を活かし、継続事業として行うことができた。 ・ポスター制作費やキャンドル材料費等の実施における費用の捻出が必要。 	
	H A - 11	夏休み体験講座	NPO法人函館市埋蔵文化財事業団、北の縄文CLUB	7/27.8/3	各40	<ul style="list-style-type: none"> ・遺跡発掘体験の参加者の満足度の高さを改めて再認識することができた。 ・当ルートならではの体験観光と位置づけられることが分かった。 ・道路を造る過程で新たに生まれた観光資源とも言えるため、今更続けて体験できるとは限らず、早い段階での観光メニューの検討が必要である。意図を分けてPRを実施することで、歴史や高山植物等の知識を参加者に伝えることができた。 	
	H A - 16	恵山観察会	NGO函館自然観察会	10月7日	14	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者がほぼ会員であるため、シーニックバイウェイ北海道の関係機関へのPR強化と一般参加者のためのPRを行うことができた。 ・シーニックバイウェイ北海道を通して、新たな団体と連携することができた。 ・地場の食事を味わうことができる食事処との連携が見られた。 	
活動団体の連携強化と観光の質の向上	H A - 1	シーニックバスツアー	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議	8月18日	33	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者がほぼ会員であるため、シーニックバイウェイ北海道の関係機関へのPR強化と一般参加者のためのPRを行うことができた。 ・シーニックバイウェイ北海道を通して、新たな団体と連携することができた。 ・地場の食事を味わうことができる食事処との連携が見られた。 ・一般の参加者を募るためのPRを行い、一般参加者の数を増やし、シーニックバイウェイ北海道の認知度を上げていくことが必要。 	今年2年目を迎えたシーニックdeナイトは、シーニックバイウェイルートに指定されてから取り組んだ活動。ルート内の冬の観光商品となるように、関係者だけではなく、地域住民も巻き込んだ活動となるよう今後も継続していく。シーニックバスツアーについては、これまで関係者による地域再確認という要素が強かったが、今後は地域住民を対象としたエリアごとの取り組みとしていく。
	H A - 4	シーニックdeナイト2008	シーニックdeナイト2008実行委員会	2/1~2/3	330	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度と比較して、実施地域及び実施団体の数が増加した。 ・小学校や教会、町会などのシーニックバイウェイ北海道に関係しない機関との連携も見られた。 ・大学生や地域住民にも主体的に参加してもらえるような仕組みが必要。 	
	H A - 12	バリアフリーボランティア事業	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議	2月16日	30	<ul style="list-style-type: none"> ・活動団体同士の連携により、バリアフリーボランティアという新分野の活動に取り組むことができた。 ・トラベルサポーターという要素も含んでいるため、今後ルート全体で取り組んでいく活動としての認識が必要。 	
	H A - 14	縄文の道フォーラム	NPO法人函館市埋蔵文化財事業団、北の縄文CLUB	9月8日	130	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーラムを通して縄文文化の普及を行い、当ルートならではの活動を実施することができた。 	
歴史を学び活かす	H A - 22	アンギン編み&勾玉作り	NPO法人函館市埋蔵文化財事業団、北の縄文CLUB	1月26日	13	<ul style="list-style-type: none"> ・アンギンを編むためのアカソを刈るところから行い、縄文文化に触れることができた。 	
自然を守りながらうまく活用していく	H A - 15	赤松観察会	赤松街道を愛する会	8月5日	30	<ul style="list-style-type: none"> ・樹齢100年を越える赤松を活用して、観察会を実施し、七飯町の歴史や資源を再認識することができた。 ・七飯町にとって赤松がどう存在なのか調査する必要がある(5号線を生活道路として展開していくためには、赤松があると商店街が形成されにくい)。 	

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート	報告者: 函館・大沼・噴火湾ルート 代表 金道太朗	報告年月: 2008/3/31
---------------------	---------------------------	-----------------

基本方針	NO	平成19年度の活動内容	活動団体	活動実施日	参加人数	成果及び課題	総括
ガイドの発掘・育成	H A - 16	恵山観察会	NGO函館自然観察会	10月7日	14	・観察会に清掃活動を取り入れることで、自然を守りながらも、観光資源として活用することができた。	今年度は、ルート運営代表者会議の運営体制について試行錯誤の上、再構築を行い、基盤が固まった。また、内部的な情報共有を強化するためのルートHPが開設され、地域が独力で運営していく。加えて、シーニックバイウェイらしいルートマップの検討もを行い、来年度の発行に向け、今後も検討を重ねていく。
	H A - 1	シーニックバスツアー	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議	8月18日	33	・郷土や歴史に詳しい方を発掘することができた。 ・ルート内でガイドができる方の情報整理やネットワーク化が必要。	
	H A - 2 3 4 5 6	シーニックdeナイト2008	シーニックdeナイト2008実行委員会	2/1~2/3	330	・シーニックdeナイト2008を見た参加者から、「キャンドルの灯りがきれい」との感想を多数頂いた。 ・来訪者も参加できる仕組みが必要。	
	H A - 13	日本風景街道シンポジウムちゅうごく	NPO法人スプリングボードユニティ21	9月13日	300	・広島県で行われたこのシンポジウムで、シーニックバイウェイ北海道代表としての立場で、当ルートの事務局長が参加し、発表を行うことができた。 ・当ルートでも、シーニックバイウェイ北海道の活動内容を理解してもらい、広く周知していくためのフォーラムを開催する必要がある。	
	H A - 17	はこだて花かいどう	函館花いっぱい道づくりの会	6月9日	650	・函館市の陸路のゲートウェイである函館IC付近の植栽活動により、ドライバーの目を楽しませることができた。 ・函館圏内だけではなく、札幌等から来る来訪客に対するPRを強化する必要がある。	
地域と来訪者の心をつなぐ	H A - 19	周遊道路清掃活動	大沼観光協会	4月29日	250	・観光シーズン前に取り組む清掃活動により、来訪者に対するおもてなしの心が醸成された。 ・シーニックバイウェイ北海道を通して、各地で取り組まれている清掃活動を統一した取り組みとして広く周知することが必要。	
	内部的な関心の共有、意識醸成	H A - 7	運営代表者会議の運営体制の変更	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議役員	11月29日	17	・意志決定機関を役員会に移し、明確な判断基準を設けることで、意志決定における流れがスムーズになった。 ・分科会への所属団体制を廃止し、個人からの参加も可能になった。・活動団体数も34団体となり、今後活動団体として参加するための基準(規約)を作成する必要がある。 ・参加活動団体の代表者もしくは担当者だけではなく、活動団体の構成員までシーニックバイウェイ北海道の活動を理解してもらうための取り組みが必要。
		H A - 8	シーニックパネル展	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議	通年	20	・シーニックバイウェイ北海道のパネル展をルート内で巡回することができた。 ・活動や取り組みを中心としたパネルの作成が必要。
		H A - 10	ルート運営行政連絡会議への参加	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議	3月17日	23	・ルート運営代表者会議側から参加することで、ルートの活動報告や活動予定等の認識が十分に成された。 ・各種検討会へ、ルート運営行政連絡会議側から参加し、ルート活動の理解認識を深める必要がある。
地域メディアとのタイアップ		—	—	—	—	—	

地域づくり

ルート名称:函館・大沼・噴火湾ルート	報告者:函館・大沼・噴火湾ルート 代表 金道太郎	報告年月:2008/3/31
--------------------	--------------------------	----------------

基本方針	NO	平成19年度の活動内容	活動団体	活動実施日	参加人数	成果及び課題	総括
多彩な世代に訴えかける情報ツールの開発	H A - 9	ルートHPの企画作成	情報分科会	1月23日	7	<ul style="list-style-type: none"> ・活動団体内部の情報共有が強化できるシステムの構築ができた。 ・運営体制についても検討を行ったが、HPの更新状況を随時確認を行うことが必要。 	
	H A - 20	ルートマップの検討	ルートマッププロジェクトチーム	11月29日	17	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ検討段階ではあるが、初のルートマップ作成への準備が整った。 	
	H A - 23	はこまち通信作成	NPO法人NPOサポートはこだて	通年	5	<ul style="list-style-type: none"> ・シーニック情報拠点である函館市地域交流まちづくりセンターが発行している無料情報誌「はこまち通信」は、函館市の地域情報が掲載されており、年4回発行している。 ・その中で、シーニックバイウェイ北海道特集ページを設け、旬の情報を地域の方に届けている。 ・今後は、はこまち通信を広く周知していく必要がある。 	

2. ルート運営活動計画に関する行政の報告

・行政の事業に関する報告(函館・大沼・噴火湾ルート)

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート	報告者: 函館開発建設部	報告年月: 2008/3/31	備考
---------------------	--------------	-----------------	----

	基本方針	平成19年度の活動内容	実施機関	活動実施日	参加人数等	成果及び課題	関連する活動団体
景観づくり	美しい景観とは何かについて考える	-	-	-	-	-	-
	ビューポイントを発掘する	-	-	-	-	-	-
	ビューポイント周辺の景観向上に取り組む	はこだて花かいどう	函館開発建設部 函館土木現業所 函館市	植栽日及び撤去日及び維持活動日	80	植栽から撤去に渡るまでの活動に参加。函館除雪ステーションを駐車場等のために開放。また飲み水や軍手などの提供も行った。行政連絡会議を通じたPR及び参加の検討が必要である。	函館花いっぱい道づくりの会、函館すぶれっと
道道本通富岡線植栽活動		函館土木現業所 函館市	植栽日及び撤去日及び維持活動日	20	植栽から撤去に渡るまでの活動に参加。行政連絡会議を通じたPR及び参加の検討が必要である。	NPO法人スプリングボードユニティ21、函館すぶれっと、函館手工芸の会	
赤松観察会		七飯町	8月5日	3	参加者募集や当日の準備などの事務局を担った。活動への参加も行った。七飯町住民への意識変容を促す施策の検討が必要である。	赤松街道を愛する会	
観光振興	地域固有の資源を活かした観光メニューの創出	シーニックバスツアー	函館市	8月18日	1	バス車内で、走行ルート周辺の歴史や縄文に関するガイドを実施。各地域のおすすめポイントなどの情報提供を行い、バスツアールート検討会への参加及びバスツアーへの参加が必要である。	ルート運営代表者会議
	活動団体の連携強化と観光の質の向上	シーニックdeナイト2008	函館開発建設部 函館土木現業所 函館運輸支局 函館市 七飯町	2/1～2/3	98	2月1日～3日に集約して行われたシーニックdeナイト2008の各会場のイベントに参加。また、キャンドル設置の協力やそりの貸し出しも行った。	シーニックdeナイト実行委員会
	歴史を学び活かす	2008 縄文フォーラム	函館開発建設部 函館市	2月11日	30	国宝と世界遺産から今後の観光を考えるフォーラムが開催され、パネラーとして参加。	ルート運営代表者会議
		赤松こも巻き	函館開発建設部 七飯町	10月14日	8	参加者の募集などの事務局を努める。また、当日イベントの参加も行った。七飯町住民への意識変容を促す施策の検討が必要である。	赤松街道を愛する会
		赤松こも外し	函館開発建設部 七飯町	3月16日	7	参加者の募集などの事務局を努める。また、当日イベントの参加も行った。七飯町住民への意識変容を促す施策の検討が必要である。	赤松街道を愛する会
	自然を守りながらうまく活用していく	-	-	-	-	-	-
	ガイドの発掘・育成	-	-	-	-	-	-
	地域と来訪者の心をつなぐ	バリアフリーボランティア事業	函館開発建設部 北海道運輸局 函館市	2月16日	8	バリアフリーという新しいテーマの活動を実施することができた。トラベルサポーターの分野も今後検討されていくため、ネットワーク化に向けた取り組みに参加していく。	ルート運営代表者会議
周遊道路清掃活動		函館開発建設部 七飯町	4月29日	10	観光シーズンを前に、周遊道路を清掃することができた。清掃活動の情報の提供を行い、ルート全体で取り組む活動へ発展させる必要がある。	大沼観光協会	

地域づくり	内部的な関心の共有、意識醸成	ルート運営代表者会議の開催	函館開発建設部	通年	20	今年度開催された5回のルート運営代表者会議に全て出席し、情報共有を図るとともに、地域との交流もとれた。行政連絡会議メンバーの参加について検討する必要がある。	ルート運営代表者会議
		役員会開催	函館開発建設部	通年	8	今年度開催された2回の役員会に全て出席し、情報共有を図るとともに、有効な意見交換を行うことができた。	ルート運営代表者会議役員
		シーニックdeナイト2008検討会	函館開発建設部	通年	6	今年度開催された3回のシーニックdeナイト2008検討会に全て出席し、交流を図るとともに、キャンドル作りなどの協力も行った。実施団体に関係している各市町の行政機関も参加し、市及び町一体で取り組む活動へ展開していく必要がある。	シーニックdeナイト実行委員会
		シーニックの森についての打ち合わせ	函館開発建設部 北海道森林管理局	3月13日	5	シーニックの森におけるフィールドや管理等についての打ち合わせに参加した。来年度の活動の目玉となるので今後も積極的に参加していく。行政連絡会議を通じた活動における情報提供の充実が必要である。	シーニックの森プロジェクトチーム
		シーニックパネル展	函館開発建設部 函館市 北斗市 七飯町 八雲町	通年	16	シーニックパイウェイ北海道普及のためのパネル展を実施するにあたり、各市町の施設を無償提供した。パネルを展示する際の協力を行った。	ルート運営代表者会議
		シーニックdeナイト2008キャンドル作り	函館開発建設部 函館市 七飯町	12月～2月	30	シーニックdeナイト2008で使用するワックスキャンドルの作成に協力。行政連絡会議を通じた活動における情報提供の充実が必要である。	シーニックdeナイト実行委員会
		シーニックdeナイト2008実施の際の道路使用許可	函館開発建設部 函館土木現業所 函館市	2月	5	キャンドルを歩道に設置できるように道路使用の許可を発行。	シーニックdeナイト実行委員会
		シーニックdeナイト2008実施の際の街灯の消灯	函館開発建設部 函館土木現業所	2月23日	1	キャンドルの目立つように街灯の消灯を行った。	シーニックdeナイト実行委員会
	地域メディアとのタイアップ	第6回市民まちづくり大学公開講座	函館開発建設部 北海道函館運輸支局 函館市 七飯町	9月29日	10	基調講演で講師を務め、シーニックパイウェイ北海道の普及に貢献することができた。	大沼観光協会、(社)函館国際観光コンベンション協会
	多彩な世代に訴えかける情報ツールの開発	シーニックdeナイト2008ポスターの作成	函館開発建設部 函館土木現業所 函館市 七飯町	12月	6	作成されたポスターについての助言等を行った。また、ポスターの後援名義として名前を提供するとともに、製作されたポスターの掲示を各行政機関施設内で行った。	シーニックdeナイト実行委員会
シーニックdeナイト2008広報		函館開発建設部 函館市	1月	5	シーニックdeナイト2008のイベントを、「函館プロミネンス」及び「市政はこだて(市の広報誌)」でPR。関係市町の広報誌を通じた早めの情報発信が必要である。	シーニックdeナイト実行委員会	

3. 地域及び行政の運営に関する報告

・函館・大沼・噴火湾ルート

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート	報告者: 函館・大沼・噴火湾ルート 代表 金道太朗	報告年月: 2008/3/31
---------------------	---------------------------	-----------------

	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
地域の運営に関わる事項	ルート運営代表者会議事務局	← 活動団体の情報収集・発信、会議運営補助、地域情報収集など →												
	ルート運営代表者会議		5/25 第4回 (17名)			8/9 第5回 (17名)		10/1 第6回 (23名)		12/10 第7回 (16名)		2/21 第8回 (17名)		
	役員会								11/29 第1回 (17名)				3/6 第2回 (8名)	
	各種検討会						●9/18 第1回シ ニツクde ナイト 検討会 (10名)	●10/19 第2回シ ニツクde ナイト 検討会 (10名)		●12/20 第3回シ ニツクde ナイト 検討会 (6名)	●1/23 情報分 科会 (7名)			
	戦略会議								10/23 第1回 (8名)	11/12 第2回 (9名)				

ルート名称:支笏洞爺ニセコルート(ウエルカム北海道エリ	報告者:函館開発建設部	報告年月:2008/3/31
-----------------------------	-------------	----------------

	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
行政の運営 に関わる事 項	行政連絡会議の実施		5/23 第1回 (27名)										3/17 第2回 (23名)	

4. 審査委員会意見に関する報告

・函館・大沼・噴火湾ルート

[ルート名称] 函館・大沼・噴火湾ルート	[報告者] ルート運営代表者会議 会長 金道太郎 / 函館開発建設部	[報告年月] 2008/3/31
----------------------	------------------------------------	------------------

審査委員会意見	函館・大沼・噴火湾ルート ルート運営代表者会議の報告	函館・大沼・噴火湾ルート 行政連絡会議の報告	備考
地域特性の活用:北海道特有の気候風土を生かし、常に新しいものの追加、物語性の充実、国際競争力の強化を進め、通年性、持続性を確保	<ul style="list-style-type: none"> 冬の取り組みとして今年2年目を迎えた「シーニックdeナイト2008」は、北海道の冬の象徴である雪を活用した取り組みを実施した。使用したキャンドルは全て手作り、キャンドル作りから団体及び地域住民と協働した取り組みを実施した。 次年度以降も、当ルートの冬の代表的な取り組みとして活動を継続し、函館から八雲まで灯りの道をつなげることを目標に実施していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> シーニックdeナイトでは、準備段階であるキャンドル作りから当日の実施に至るまで、参加協力を行った。 行政機関の広報誌を利用したシーニックdeナイト2008のPR活動を行った。 今後も参加協力及び様々な情報提供、PR活動を行っていききたいと考える。 	
景観への取り組み:景観意識の向上、景観や地域資源を生かしたコミュニティビジネスの創出	<ul style="list-style-type: none"> 景観に対する意識を向上するため、次年度以降は清掃活動及びシーニックデッキの作成に取りかかりたい。 景観や地域資源を生かしたコミュニティビジネスとして、シーニックデッキの開設場所での物産展やシーニックdeナイトのキャンドル販売など次年度以降の活動資金となるような取り組みを行っていききたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな取り組みへの参加協力及び情報提供、PR活動を行っていききたいと考える。 	
自然に与えられた景観の活用に加え、まちなかの建物・看板等の規制や指導などの検討	<ul style="list-style-type: none"> 景観に対する意識を向上するため、次年度以降は清掃活動及びシーニックデッキの作成に取りかかりたい。 景観や地域資源を生かしたコミュニティビジネスとして、シーニックデッキの開設場所での物産展やシーニックdeナイトのキャンドル販売など次年度以降の活動資金となるような取り組みを行っていききたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな取り組みへの参加協力及び情報提供、PR活動を行っていききたいと考える。 	
既存観光地からの脱却を目指し、歴史・文化・レクリエーションなど幅広く地域の個性を生かした新たなツーリズムの展開に向けた取り組みの実施	<ul style="list-style-type: none"> ルートの特性である縄文を生かした発掘体験に地場の食を絡めたシーニックバスツアーを実施した。 環境に配慮した活動と絡めながら今後も継続していきたい。 ルートマップの検討にあたり、準備段階として地域のお勧めスポット等の情報を収集した。この情報を生かした取り組みについても今後検討を行っていききたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 行政連絡会議を通して、ルート内のお勧めスポット(個人的判断)の情報収集を行った。今後は地域が取り組む活動に対して、参加を行うとともに、これらの情報の提供を行っていききたいと考える。 	
シーニックバイウェイルート全体に対する意見 持続性の確保:参加する各主体(国、道、市町村、活動団体、住民)による持続的な責任ある行動とその活動や成果に対する外部評価やアドバイザーの採用	<ul style="list-style-type: none"> ルートの連携活動として位置づけられる活動を増やし、各主体が積極的に参加し、取り組みを実施できる活動を行っていききたい。 外部評価やアドバイザーの採用については、今後検討を行っていききたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 行政連絡会議として、団体が実施する活動に対して積極的に参加し、責任ある行動を実施できるよう連携プログラムについて検討を行った。 次年度以降は、連携プログラムに則り、行政機関同士の連携強化も図りながら、プログラムの遂行を行っていききたいと考える。 外部評価やアドバイザーの採用については、今後検討を行っていききたいと考える。 	

<p>ホスピタリティ向上: 研修プログラムの実施、地域での多様な人材育成</p>	<p>・地域での多様な人材育成として、シーニックdeナイト2008におけるキャンドル作りがあげられる。ルート内のキャンドル関連の第一人者(参加団体)が、他団体にキャンドルの作り方を教えることで、地域の輪が広がった。 ・また、作り方を教わった団体が、次は地域住民に対して講師を務めることで、今後のシーニックdeナイトにおける展望が開けた。 ・バリアフリーボランティア事業では、障害者に対する知識から接し方による一日講習が実施され、団体だけではなく、一般参加者も多く見られた。 ・今後は、トラベルサポーターとしての研修プログラムを構築し、道内のネットワーク化に向けた取り組みを実施していきたい。</p>	<p>・バリアフリーボランティア事業の企画及び運営、また当日の参加も行った。 ・今後は団体とも協働した取り組みを実施し、館奥拠点の窓口としてだけでなく、トラベルサポーターの派遣も行える取り組みができるような企画及び検討を行っていききたいと考える。</p>	
<p>全国・世界への情報発信、旅行会社等民間企業との連携</p>	<p>・今年度実施したシーニックバスツアーは、地元トップツアーの旅行会社と連携して実施した。 ・全国及び世界への情報発信の準備として、ルートHPが開設された。次年度は団体内部の情報共有の強化を目的としているが、全国及び世界に向けた発信について今後検討を行っていききたい。</p>	<p>・団体で次年度検討されるルートマップにおける情報提供及び検討会に参加し、ルート情報の発信に向けた取り組みを行っていききたいと考える。</p>	
<p>開かれた運営体制: 継続的な参加者の募集、地域住民やコミュニティとの連携・協働</p>	<p>・参加団体の情報共有の強化及び意志決定機関の確立を目指し、ルート運営代表者会議の再構築を行った。それに伴い、役員も一新した。 ・参加活動団体も34団体にまで増加し、今後は参加活動団体のシーニックバイウェイに対する意識を見ながら、団体の整理を行っていききたい。</p>	<p>・ルート運営行政連絡会議では、代表者会議の役員が参加するなどして、開かれた会議運営を行った。 ・次年度は、代表者会議との合同会議開催を考慮しており、団体の活動に対する意見交換会を開催したいと考えている。</p>	
<p>景観資源、歴史的資源。自然資源は魅力的な資源といえるが、人々が生活する場の景観の改善や、各紙源の融合、組み立てによるブランド化に向けた取り組みを期待したい。</p>	<p>・次年度、ルートマップの検討を考慮しており、シーニックバイウェイらしいマップの作成を考えている。</p>	<p>・新たな取り組みへの参加協力及び情報提供、PR活動を行っていききたいと考える。</p>	
<p>ホスピタリティ向上等、来訪者をお迎えする「おもてなし」について、具体的に活動計画に反映されたい。</p>	<p>・次年度は、指定ルート3年目ということもあり、活動計画の見直しを検討したい。</p>	<p>・活動計画の見直しにあたり、情報提供や適切な助言等を考えている。</p>	
<p>函館・大沼・噴火湾ルートに対する意見</p>	<p>・地域での多様な人材育成として、シーニックdeナイト2008におけるキャンドル作りがあげられる。ルート内のキャンドル関連の第一人者(参加団体)が、他団体にキャンドルの作り方を教えることで、地域の輪が広がった。 ・また、作り方を教わった団体が、次は地域住民に対して講師を務めることで、今後のシーニックdeナイトにおける展望が開けた。 ・バリアフリーボランティア事業では、障害者に対する知識から接し方による一日講習が実施され、団体だけではなく、一般参加者も多く見られた。 ・今後は、トラベルサポーターとしての研修プログラムを構築し、道内のネットワーク化に向けた取り組みを実施していきたい。</p>	<p>・バリアフリーボランティア事業の企画及び運営、また当日の参加も行った。 ・今後は団体とも協働した取り組みを実施し、館奥拠点の窓口としてだけでなく、トラベルサポーターの派遣も行える取り組みができるような企画及び検討を行っていききたいと考える。</p>	